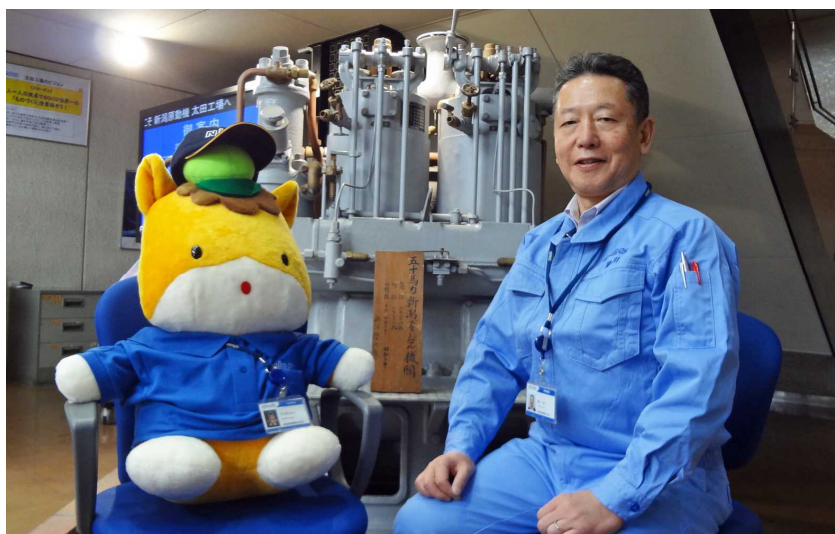


ご挨拶



新潟原動機株式会社
代表取締役社長
犀川 淳一

昨年度は、高知県四万十市で国内観測史上最高気温となる 41.0℃を記録するなど、世界各地で極端な気象現象が発生しました。これらの原因の一つとして、地球規模の温暖化による影響が大きいと言われています。この温暖化対策で即効性があると言われている天然ガスへの燃料転換は、米国のシェールガス革命に代表される世界的な動きが加速しています。日本では、天然ガス価格が高止まり傾向にあり、その転換は遅れ気味ではありますが、最近では、陸上分野のみならず、船舶分野においてもその活用に注目が集まっています。

当社は、LNG（液化天然ガス）を主燃料に用い、従来の船舶用エンジンに比べ大幅に温室効果ガスや汚染物質の排出を抑えたエンジン「AHX-DF」を開発し、2014年3月から販売を開始しました。「AHX-DF」はガス燃料運転とディーゼル燃料運転が切り替え可能なデュアルフューエル（2元燃料）エンジンで、環境負荷低減と船舶用に必要な冗長性を両立しています。

又、一方では、燃料削減を目的として、回転数に拠らない主機関駆動発電システム（PWM 装置）を開発し、遠洋鮪延縄船に納入しました。燃料消費の少ない主機関駆動の PWM 装置は、燃料消費量を削減し、搭載する補機発電装置台数の削減を可能とすることで船内作業の軽減にも貢献しています。

持続可能な社会を構築するためには、高い経済性を維持しつつも温室効果ガスや汚染物質の排出を大幅に抑制できる製品やサービスを社会に提供することは我々に課せられた大きな責務です。

引き続き、これからの社会の要請に応えられるように、体制の整備、新製品の開発に取り組んでまいります。また今年度も、コンプライアンスが企業の社会的責任を果たす基盤である事を念頭に、お客様・取引先・地域などから社会的要請に応じて信頼される会社を目指します。

今後とも当社の活動に対しまして、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。